

私たちのまちを 認知症になっても安心して暮らせるまちにしませんか

今年4月、名古屋高裁で、徘徊症状のある認知症の高齢者が電車にはねられ死亡した事故で、自身も要介護Ⅰの91歳の妻に、夫を見守る義務があったとして賠償金の支払いを命じる控訴審判決が出ました。今年5月に放送されたNHKスペシャルでは、平成24年中に、延べ約1万人が徘徊等で行方不明になったと警察に届け出があったと報道されました。

長久手市の65歳以上の人口は、10月1日現在、約8,200人で、そのうちの約1,000人が認知症の方です。厚生労働省は、今後、65歳以上の4人に1人が認知症とその“予備軍”となると予想しています。

長久手市では、認知症の方が行方不明になった場合に、早期発見するための取組みとして、「行方不明高齢者保護ネットワークメール」を始めています。これは、認知症の方などが、行方不明になったときに、本人の写真と名前や服装などをメールでお伝えし、受信したみなさんに無理のない範囲で、搜索や声掛け、保護に協力いただくものです。

一人でも多くの方に、メール登録いただき、行方不明者を探す“地域の目”を増やしていきたいのです。

認知症の問題、徘徊の問題は、明日は我が身です。自分自身が認知症になる場合もあるでしょうし、家族になる場合もあります。なんと言っても、65歳以上の4人に1人が認知症とその“予備軍”なのです。

家族だけで常に見守るのには、限界があります。いざというときに一緒に探してくれる、たくさんの“地域の目”があれば、長久手市は、認知症になっても安心して暮らせるまちになります。

“お互いさま”の気持ちで、ぜひ登録をお願いします。

10月27日現在の登録者は、約950人です。市民総ぐるみで、この取組みに賛同し、登録をしていただきたいと思います。

QRコードを使った登録方法は、高齢者には少し難しいものです。若い世代の方々が、家族、知り合いの高齢者の方の登録の手助けをしていただけると幸いです。

“お互いさま”の気持ちで行方不明高齢者保護ネットワークメールに登録をお願いします！

■登録方法（登録は無料です）

①QRコードを携帯電話で読み取り、空メールを送信してください（件名、本文不要）。

* QRコードが読み取れない場合は、cyouju.nagakute-city@raidan.ktaiwork.jp宛に空メールを送信してください。



②数分以内に、登録用URLが記載されたメールが届きますので、指示に従って登録をお願いします。個人の名前や電話番号を入力する必要はありません。

* 返信メールがこない場合は、迷惑メール設定を変更してください。

ご不明な点は、長久手市役所長寿課いきいき長寿係(0561-56-0631)までお問い合わせください。

～市長の話を聞いて～

私自身、メール登録をしてから、一人で歩いている高齢者の方が気になり出しました。「この人、大丈夫かな？」と思っても、電車で席を譲ったのに断られた経験がよみがえり、「元気な人だったら、迷惑に思われるかな…」と躊躇して、声を掛けられそうにありません。でも、メールで顔写真が届けば、「あ、この人だ！」と声を掛けやすいと思います。しかし、何と声を掛ければいいのか分かりません。市長に尋ねたら、「笑顔で、正面から、目線を合わせて『大丈夫ですか？どちらに行かれますか？』と声を掛けるんだよ」と教えてもらいました。いくつか質問をして、受け答えがちょっと気になるようであれば、役所等に連絡をすることになります。

とはいえ、普段からあいさつをしていない人は、「あ、この人だ！」と思っても、なかなか声を掛けられないと市長は言います。だからこそ、普段からのあいさつが大切なんだと。

11月6日（木）午前10時から正午まで、市内一斉で徘徊高齢者搜索模擬訓練が行われます。徘徊役4人が市内を歩きます。「昼間は、市内にいないから関係ない」と思わず、まずは登録をお願いします。実際の行方不明の方は、昼間限定、市内限定で歩くわけではないのですから。